

令和6年度全国学力学習状況調査報告分析結果

【教科に関する調査の結果にみられる特徴と現状分析】

○ 国語科の調査結果にみられる成果と課題

すべての項目で全国平均を上回っています。昨年度から引き続き、コミュニケーション力を高めるために、スピーチに関する授業を積極的に行いました。その結果が「話すこと・聞くこと」で全国平均を上回ることができたと考えられます。「書く」については、ICT上で提出させるだけではなく、公立高校入試を意識して、実際に作文用紙に書く授業を多く取り入れました。「読むこと」に関しては、じっくりと文章を読んで読み解する生徒が多い傾向があります。しかし、説明的文章の読み解き、問題を解くために時間がかかるように感じられます。問題演習を積み重ね、スムーズに解く練習をしていく必要があると考えられます。



○ 数学科の調査結果にみられる成果と課題

すべての項目で全国平均を上回っています。しかし、過去の結果と比べるとほとんどの項目が下回っています。図形・関数・データの活用は苦手意識を持っている生徒が多いことを感じます。既習事項の確認を丁寧に行い、知識の積み重ねをしていく必要があると考えられます。



【質問紙調査の結果にみられる特徴と現状分析】

○ 生徒質問紙調査結果にみられる成果と課題



教科学習への意識が高く、生活習慣も安定している生徒が多いです。しかし、自己有用感が低い所に懸念があります。地域的に学習への関心が高く、周囲との比較の中で、生活している要素を持っているため、授業や部活動、行事などで生徒1人ひとりの良さが認められる機会を増やすことで、生徒たちが自信をもてるような指導を心掛ける必要があると考えます。



【改善目標・改善策・検証方法】

○ 改善目標

- | | |
|--------|--|
| <数学科> | ・図形、関数、データの活用の項目の値を上げる。 |
| <国語科> | ・我が国の言語文化に関する事項、話すこと聞くことの値を上げる。 |
| <質問調査> | ・地域や保護者との連携を向上し、学校としての信頼をより高めていく。
・生徒の自己有用感の向上を目指す。 |

○ 改善方策

- | | |
|--------|---|
| <数学科> | 既習事項の確認を単元の始めや、授業の中で行います。また、既習事項をまとめたプリント等を作り、各自ですぐに振り返りができるようにしようと考えています。 |
| <国語科> | 説明的文章の読み解きをより短時間でできるようにするために、問題演習を取り入れるなど工夫する必要があると考えています。また、問題を解くにあたり、表現力を高める必要がある。スピーチや話し合いの授業を増やし、自分の考えていることを言語化できるようにする場面を作ろうと考えています。 |
| <質問調査> | 地域人材の活用やホームページや学校便りの工夫等の情報発信方法を改善していく必要があると考えています。また、生徒には様々な長所があることから、行事や部活動、委員会活動など学習以外の活動を通して生徒が自分の良さに気付き、認める場面を大切にしていくことが必要であると考えています。 |

○ 検証方法

- | | |
|--------|---|
| <数学科> | 単元テストやテストの結果、振り返り内容から評価します。また、既習事項の定着過程を生徒同士の学び合い活動の様子から見取り、必要に応じて助言をしていこうと考えています。 |
| <国語科> | スピーチの発表の際に、「表現力」「主張の明確さ」「説得力」の観点で評価を行います。よりよいスピーチを作り上げるために、小グループでの発表を実施し、他からの客観的なアドバイスを生かし、言語化する力を高めていく必要があると考えています。読み解きの定着について単元テストや小テストなどで定期的に評価していきます。 |
| <質問調査> | 日々の生徒の表情や会話、生活記録帳、心のノートなど様々な観点から生徒の様子をとらえ、生徒の心の変化の年間を通して見ていく必要があると考えています。また、年2回のQ&U検査や、教育相談、保護者面談などで得られた生徒の様子を把握し、それらを全職員で情報を共有していく必要があると考えています。 |